

日中同形語の量的分析

許 雪華

要旨：本稿は、日中同形語の全体像を把握するため、『新明解国語辞典』と《現代汉语词典》からすべての同形語を12681語抽出した。そして、意味の異同、品詞性の対応関係によって、日中同形語を分類し、各グループの語数も統計した。このような量的な分析によって、日中同形語には同形類義語への考察、品詞性のズレの原因、三字以上の同形語の使い方の対照研究など、研究に値する課題が多く残っていることがわかった。

キーワード：日中同形語 量的 意味 品詞

1. はじめに

日中同形語は日中対照研究の重要な分野の一つである。日中同形語に関する統計も多いが、『中国語と対応する漢語』をはじめ、数多くの統計において、以下の問題点がある。(1) 日中両国の国語辞典からすべての同形語を抽出し、統計する研究が少ない。(2) 二字音読み語を中心とする研究が多く、訓読み語、三字語、四字語なども視野に入れた日中同形語の全体像を見る研究が少ない。(3) 意味の分類において、同形同義語に関する判断基準が曖昧で、同形類義語を同形同義語として扱う傾向がある。(4) 意味だけでなく、品詞性も量的な観点から統計する研究が少ない。

本稿は日本と中国の代表的な国語辞典を利用し、日中同形語の実態を調査したものである。日本語は『新明解国語辞典（第五版）』（以下『新明解』）、中国語は《現代汉语词典（第五版）》（以下《現漢》）を利用した。両辞典から日中同形語を抽出し、辞書の記述に基づいて、意味、品詞の分類を行い、それぞれの語数を統計し、日中同形語の全体像を明らかにする。また、各統計によって、研究の余地がある分野を見つけ、日中同形語研究の新たな展開に役立てたいと考える。本稿は訓読み語と三字以上の同形語も統計すること、そして品詞性の対応関係を明らかにすることを特徴とする。

2. 日中同形語の抽出基準

日中同形語は、文字通り、日中両言語で形が同じである語を指す。同形語のほとんどが漢語であることから、音読み語だけを取り扱う研究が多い。しかし、同形語には「父親」「手続」などの訓読み語もあるため、本稿は読み方を問わず、漢字表記が同じである語をすべて抽出する。具体的には、『新明解』における漢字表記のある語を、《現漢》で調べ、《現漢》にも記載されて

いれば、日中同形語として抽出する。具体的な抽出基準は以下の五つである。

(1) 簡体、繁体を問わず、漢字源が同じであれば、同一漢字とする。例えば、「認識」と“认识”は同形語である。

(2) 日本語の場合、読み方を問わず、送り仮名がなく、漢字表記があるものをすべて取り扱い、《現漢》と対照する。

(3) 日本語にいくつかの読み方がある場合、意味に大きな違いがない限り、音読み語だけ抽出する。例えば、「春風」は『新明解』で「はるかぜ」と「しゅんぷう」と二つの読み方があるが、「しゅんぷう」は『はるかぜ』の漢語的表現であり、意味に差異がない。本稿はこの場合、「しゅんぷう」だけを抽出する。

(4) 日本語では二字語であり、中国語では四字熟語の一部でしかない語は抽出しない。例えば、「喪心」は日本語では一語であるが、中国語では“喪心病狂”の一部でしかないため、同形語として扱わない。

(5) 日本語では、『常用漢字表』にない漢字を表内漢字に書き換える場合もあるが、もとの用字に変換してから《現漢》と対照する。例えば、日本語の「弁」は中国の“辨”“辯”“辨”“办”“瓣”の五つの漢字とも対応する。「弁」を元の用字に変換しなければ、「弁護」「弁識」などの同形語は見落とされる。

3. 日中同形語の数

上述の抽出基準に従い、日中同形語を全部で 12681 語抽出した。同形語を構成する漢字の数によって、二字語、三字語、四字語、五字以上の語に分ける。そして、二字語を更に日本語の読み方によって、二字音読み語と二字訓読み語に分ける。各種類の語数は表 1 にまとめた。

表 1 日中同形語の数

種類	二字音読み語	二字訓読み語	三字語	四字語	五字以上の語
語数	11651	267	502	243	18
比率 (%)	91.88	2.10	3.96	1.92	0.14

表 1 からわかるように、日中同形語の中では、二字音読み語が最も多く、全部で 11651 語あり、全体の 91.88% を占める。漢語が日中両国の言語交流の主役であることがわかる。それに対して、二字訓読み語は 267 語であった。語を構成する二つの漢字がともに訓読みである語がほとんどであるが、重箱読みの語、湯桶読みの語もいくつか入っている。

表 2 二字訓読み語の分類

読み方	語数	比率 (%)	語例
訓読み	198	74.16	髪型 組合 毛皮 父親 手続
重箱読み	28	10.49	暗箱 後手 地主 中型 棒球
湯桶読み	18	6.74	片面 釣具 手勢 手本 蜂蜜

当て字	23	8.61	田舎 螻蛄 七夕 千歳 雪崩
-----	----	------	----------------

これらの二字訓読み語は「手続」「立場」のような日中交流からできたものもあれば、「外表（そとおもて）」「手袋（てぶくろ）」など意味が完全に異なり、両国語の中で漢字が偶然に一致していると思われる言葉もある。これが二字訓読み語と二字音読み語の大きな違いである。

三字語が日中同形語の中では二番目に多く、全部で 502 語ある。また、三字語の多くは専門用語である。例えば、「白内障・精神病・脳出血」などの病名、「回帰線・北極圏・亜熱帯」などの地理用語、また植物や動物の名前、数学用語などが多い。

四字日中同形語は 243 語ある。その中に、四字熟語（成語）は 88 語あり、「一目瞭然・半信半疑・傍若無人」などがその例である。そして、普通の四字語は 155 語あり、「形而上学・唯物史観」などの抽象語がほとんどであるが、「十二指腸・神経衰弱」などの医学用語もある。

五字語は 15 語あり、すべて「本初子午線」「無機化合物」「電子計算機」などの専門用語である。六字語は「高分子化合物」の 1 語で、七字語は「第一次世界大戦」「第二次世界大戦」の 2 語である。

4. 日中同形語の意味

日中同形語は両言語における意味の異同によって、同形同義語、同形類義語、同形異義語に分けられる。具体的には、『新明解』と《現漢》における意味項目を比較し、積義が同じであるものを同形同義語、積義の一部が同じであるものを同形類義語、積義が完全に異なるものを同形異義語とする。ただし、本稿は同形同義語の範囲をより厳密に捉える立場をとる。例えば、「最近」は一見同形同義語であるが、意味項目と用例と合わせて比較すると、意味にズレがあることがわかる。

「最近」（『新明解』）

現在に最も近い過去。「— [=つい、この間] のニュースによれば／—では珍しくない」

「最近」（《現漢》）

指说话前或后不久的日子：～我到上海去了一趟 | 这个戏～就要上演了。

日中両言語で同じく「現在に近い」という意味要素を持っていても、日本語では「過去」しか表せず、中国語では“这个戏～就要上演了”のように「先」も表せるため、同形類義語とする。

4.1 二字音読み語

二字音読み語は全部で 11651 語あり、具体的な分類は以下である。

表 3 二字音読み語の意味の分類

二字音読み語	同形同義語	同形類義語	同形異義語	合計
語数	7924	2891	836	11651

比率 (%)	68.01	24.81	7.18	100
--------	-------	-------	------	-----

二字音読みの日中同形語には、同形同義語が一番多く、全体のおよそ7割近くある。これらの日中同形語は中国人の日本語習得にも日本人の中国語習得にも大きく役立つと考えられる。ただし、この比率は他の統計よりずっと低い¹。「最近」「衝突」「注意」など一見同形同義語に見えるものが実際は同形類義語であることが一因であろう。このような意味に微妙な差異がある同形語については更なる考察が必要となる。

4.2 二字訓読み語

二字訓読み語は全部で267語あり、具体的な分類は以下である。

表4 二字訓読み語の意味の分類

二字訓読み語	同形同義語	同形類義語	同形異義語	合計
語数	130	54	83	267
比率 (%)	48.69	20.22	31.09	100

表4からわかるように、二字訓読み語の各種類の比率は二字音読み語と大きく異なる。まず、同形同義語は48.69%しかなく、音読み語の68.01%より20%近く少ない。一方、同形異義語の比率は31.09%もあり、音読み語の7.18%よりずいぶん多い。同形類義語の比率はあまり変わらない。これは「手袋・節目・焼餅」など、両国でたまたま同じ漢字を使う言葉や、中国語では方言として使われる「山芋・筋道」など、両言語で偶然一致する言葉が多いことに関係がある。それでも、同形同義語の数が一番多いのは、「手続き・立場」など日本語から中国語に伝わった言葉、「蜘蛛・七夕」など日本人が中国語の同じ概念を表す漢字を、訓読み語に当てた言葉が幾分存在しているからであろう。

4.3 三字以上の日中同形語

三字、四字、五字以上の日中同形語は専門用語が多く、同形同義語がほとんどである。ここはそれらを一括で考察する。

表5 三字以上の日中同形語の意味の分類

三字以上の語	同形同義語	同形類義語	同形異義語	合計
語数	749	5	9	763
比率 (%)	98.16	0.66	1.18	100

三字以上の日中同形語は「矢車菊(やぐるまぎく)・大掃除(おおそうじ)」の二語を除き、全部音読み語である。その中で同形同義語が全体の98.16%も占めており、二字語を大幅に上回っている。これは、三字以上の日中同形語は意味が限定され、新しい意味を派生することが難

¹ 『中国語と対応する漢語』の収録する二字語を分析すると、S類(同形同義語)は同形語(N類を除く)の90%近くも占める。また王蜀豫(2001)によると、同形同義語は80%近くあるという。

しいからであると考えられる。また、意味の範疇から見ると、三字語はほとんど専門用語、固有名詞であり、両国で同じものの名前、同じ歴史事件を表しているため、変わりようがないのも原因の一つであろう。

同形類義語は5語あり、その内、「天衣無縫・独眼龍・青天白日」の三語は熟語であり、両言語において字面の意味は同じであるが、結合できる言葉、使える文脈が完全に異なる。また、「宇宙空間・自然主義」の二語は両言語で一部の意味項目が同じであるが、日本語の意味項目が中国語より多い。

同形異義語は9語あり、その中に「一年生・大丈夫・黄表紙・口頭語・連合国・通信員・高等学校」の7語は、日中両言語でそれぞれ違う概念を指す。また、「朝三暮四・柳暗花明」の2語は同じ語源を持ちながら、「朝三暮四」の場合は、中国語が元の意味を失い、「柳暗花明」の場合は、日本語が元の意味を失ったので、現在は両言語で意味が完全に異なる。

このように、三字以上の日中同形語は意味にズレがあるものが少ない。言語生活では、三字以上の同形語は辞書から抽出したものより遥かに多いと考えられるが、上述の統計結果からそのほとんどが同形同義語だと推測できる。

5. 日中同形語の品詞性

《現漢》は“名詞”“動詞”“形容詞”など単語の品詞を直接記述している。『新明解』は「一する」「一なに」などの表記で品詞性を表している。また、「品詞などの指示」で、「一する」は名詞のほかにサ変動詞の用法を持つ、「一なに」は、名詞のほかに連体形に「一な」、連用形に「一に」の用法を持つ、そして、「一たる」とは名詞のほかに連体形に「一たる」、連用形に「一と」の用法を持つという旨の説明がある。本稿は用語を統一させるため、『新明解』の「一する」を「名詞・動詞」、「一なに」を「名詞・形容詞」とする。また「一たる」とは日本特有の品詞種であるゆえ、そのまま使う。以下、日中両言語における同形語の品詞性を比較する。

5.1 二字音読み語

日本語の音読み語はすべて漢語である。『新明解』で漢語には「副詞」のほかに、すべて名詞という品詞性が付与されている。つまり、名詞と副詞のほかに、同形語は日本語では少なくとも二つの品詞を持つということになる。実際、ほかの国語辞典でも、大抵は漢語に名詞の品詞性を与えている。一方、《現漢》では、二つ以上の品詞を持つ多品詞語（兼類詞）は少ない。そのため、日中同形語において、ともに名詞であるものを除き、ほとんどの同形語の品詞性が対応していない。以下、日中同形語の両言語における品詞性の対応関係を「品詞性が対応するパターン」「品詞性にズレがあるパターン」「品詞性が完全に異なるパターン」の三パターンに分ける。

表6 二字音読み語の品詞性の対応関係

対応関係	日本語	中国語	語数	合計
品詞性が 対応する	名詞	名詞	5894	6249 (53.64%)
	名詞・動詞	名詞・動詞	296	
	名詞・形容詞	名詞・形容詞	31	
	副詞	副詞	22	
	名詞・副詞	名詞・副詞	5	
	接続詞	接続詞	1	
品詞性にズレが ある	名詞	名詞・動詞	215	4014 (34.45%)
	名詞	名詞・形容詞	157	
	名詞・動詞	動詞	2666	
	名詞・動詞	名詞	185	
	名詞・動詞	動詞・形容詞	96	
	名詞・形容詞	形容詞	507	
	名詞・形容詞	名詞	30	
	そのほか	そのほか	158	
品詞性が 完全に異なる	名詞	動詞	524	1388 (11.91%)
	名詞	形容詞	271	
	名詞	副詞	40	
	名詞	そのほか	95	
	名詞・動詞	形容詞	155	
	たる と	形容詞	134	
	そのほか	そのほか	169	
合計				11651 (100%)

表6 から二字音読み語の日中両言語における品詞性の対応関係と特徴が分かる。

(1) 日中両言語で品詞性が対応している日中同形語は 6249 語あり、同形語の半分以上を占める。その中で日中両言語で共に名詞である語が一番多く、全部で 5894 語ある。

(2) 品詞性にズレがある語と品詞性が完全に異なる語は合わせて 5402 語あり、品詞性が一致しない語も多数存在することがわかる。日中同形語は日本語では、副詞以外全て「名詞」の品詞性を持っており²、幾つかの品詞を兼ねている語が多いが、中国語では一つの品詞しか持たない語が多い。これが原因で品詞性が一致していない語も多い。

² 『新明解』の説明では「一たる一と」も名詞の品詞用法があるとしているが、『大辞林』などの国語辞典では、名詞の品詞性を表示しない。本稿は『新明解』に従う。

(3) 品詞性にズレがある日中同形語に関しては、日本語では名詞・動詞、中国語では動詞である語が最も多く、2666語ある。また、日本語では名詞・形容詞、中国語では形容詞である語も507語ある。この2タイプの語は合わせて3173語もあり、品詞性にズレがある日中同形語全体（4014語）の79.05%を占める。この二つのタイプの共通点は中国語に名詞用法がないことである。つまり、名詞用法の有無が品詞性のズレが生じるか否かのポイントとなる。

(4) 日中両言語で品詞性が完全に異なる同形語の中では、日本語では名詞、中国語では動詞である語が最も多く、524語もある。その次は日本語では名詞、中国語では形容詞である語で、271語ある。これも名詞用法の有無が絡んでいる。

(5) 日本語では名詞・動詞であり、中国語では形容詞である語は155語あり、そして中国語では動詞・形容詞である語は96語あり、合わせて251語ある。この二つのタイプには名詞用法の有無も絡んでいるが、日本語の動詞と中国語の形容詞の間のズレでもある。

次は各品詞の対応関係のパターンにおいて、同形同義語、同形類義語、同形異義語の数を統計する。

表7 二字音読み語の意味と品詞性

意味 品詞パターン	同形同義語 (比率%)	同形類義語 (比率%)	同形異義語 (比率%)	合計 (比率%)
品詞性が対応する	4468 (71.50)	1397 (22.36)	384 (6.14)	6249 (100)
品詞性にズレがある	2604 (64.87)	1149 (28.63)	261 (6.50)	4014 (100)
品詞性が完全に異なる	852 (61.38)	345 (24.86)	191 (13.76)	1388 (100)

まず、同形同義語の比率であるが、品詞性が対応するパターンが占める比率が最も高く、71.50%もある。その次は品詞性にズレがあるパターンであり、最後は品詞性が完全に異なるパターンである。一方、同形異義語の比率は逆である。品詞性が対応するパターンと品詞性にズレがあるパターンとはあまり変わらないが、品詞性が完全に異なるパターンは13.76%もあり、他の二つのパターンの二倍もある。つまり、意味は品詞性に一定の影響があるが、唯一の要素ではないと言える。日中同形語の品詞性に影響する要素は他にもある。同形同義語で、品詞性にズレがある語は全部で3456語あり、品詞性にズレが生じる原因は考察すべき課題である。

5.2 二字訓読み語

日中同形語を抽出する際、日本語において、送り仮名を持つ語を対象外にしたため、抽出した267語の中の253語が名詞である。中国語は日本語ほどではないが、名詞が230語ある。

表8 二字訓読み語の品詞性の対応関係

対応関係	日本語	中国語	語数	合計
品詞性が対応する	名詞	名詞	230	232 (86.89%)
	副詞	副詞	1	

	名詞・動詞	名詞・動詞	1	
品詞性にズレがある	名詞	名詞・動詞	3	10 (3.75%)
	名詞・形容詞	形容詞	3	
	名詞・動詞	名詞	4	
品詞性が完全に異なる	名詞	動詞	9	25 (9.36%)
	名詞	形容詞	5	
	名詞	そのほか	6	
	そのほか	そのほか	5	

表8から二字訓読み語は日中両言語において、品詞性がほとんど一致していることがわかる。しかし、その中に同形同義語が48.69%しかないので、日中両言語で同じ漢字で違うものを指す名詞が多くあることがわかる。一方、「新型・深情・雪崩」などは両言語で意味が同じでありながら、品詞性が異なっている。意味が品詞を左右する唯一の原因ではないことはここからも伺える。

5.3 三字語

前節で述べたように、三字語になると、病名・植物名・地理用語などの専門用語が多く、名詞がほとんどである。しかし、その中にもいくつか名詞ではないものがある。

502語のうち、両言語でともに名詞である語は478語あり、三字語全体の95.22%を占める。残りの24語は品詞性が一致していない。

表9 三字語の品詞性の対応関係

対応関係	日本語	中国語	語数	合計
品詞性が対応する	名詞	名詞	478	478 (95.22%)
品詞性にズレがある	名詞・動詞	動詞	11	17 (3.39%)
	名詞・動詞	名詞	2	
	名詞・形容詞	名詞	2	
	名詞・形容詞	形容詞	2	
品詞性が完全に異なる	名詞	動詞	2	7 (1.39%)
	名詞	形容詞	4	
	名詞・形容詞	動詞	1	

品詞性が一致していない同形語の中に、「一年生・大丈夫」の二語だけが意味にズレがある。他は全部同形同義語である。「一元化・合理化・表面化」など、「一化」が付いている語が5語あり、日本語では名詞・動詞であるが、中国語ではただの動詞である。表9と表7を比べると、三字語の品詞性の対応関係は二字音読み語ほど複雑ではないが、各パターンにおける品詞性の

ズレ方がほとんど同じであることがわかる。

5.4 四字語

四字以上の語について、《現漢》では品詞性に関する記述がない。『新明解』では四字語の一部に「一する」「一なーに」が付いている。本稿は『新明解』に品詞性の記述がある語に限定して、四字語の品詞性の特徴を述べる。

『新明解』で品詞の記述がある四字同形語は 25 語ある。

表 10 『新明解』における四字語の品詞性

品詞性	語数	語例
名詞・動詞	12	百発百中 粗製濫造 急転直下 立体交差 牽強付会 切磋琢磨 輕挙妄動 四分五裂 四捨五入 四通八達 袖手傍觀 醉生夢死
名詞・形容詞	9	傍若無人 堅忍不拔 天衣無縫 一目瞭然 不即不離 不可思議 有名無実 自暴自棄 单刀直入
一たる一と	2	虎視眈々 戰戰兢兢
副詞	2	徹頭徹尾 古往今来

表 10 が示したように、「四捨五入・立体交差」の二語を除いて、すべて四字熟語（成語）である。これらの熟語は日本語において、「一する」を従え、動詞として使われることや、「一なーに」を従えて、形容詞として使われることがある。村木新次郎（2012）は四字熟語が外形上は句のようであるが、本質的な特徴は単語と一致すると述べ、日本語における四字熟語の品詞性を考察する重要性を強調し、一部の四字熟語を用例に基づいて品詞に分類した。それでは、中国語はどうであろう。中国語では“成语”を一つの慣用句として扱い、品詞性を論じないのが一般的である。しかし、“坚忍不拔、天衣无缝”などは中国語において、常に“的”を伴い、名詞を修飾し、文中で述語として働くので、普通の形容詞の特徴を持っている。そのため、筆者は中国語における四字熟語の品詞性も考察すべきであると考え。また、その考察の結果によって、日中両言語における四字同形語の品詞性の対照研究が可能となる。

6. おわりに

本稿は、日中同形語を漢字数によって、二字語、三字語、四字語などに分け、種類ごとにその語数を統計し、意味と品詞の対応関係を併せて考察した。その結果、日中同形語について、以下のことが明らかになった。

(1) 日中同形語には二字音読み語が最も多く、その次が三字語である。

(2) 意味の異同から見ると、三字以上の日中同形語においては、同形同義語が 98.16% を占め、それをすべて同形同義語と見てもよいぐらいである。また、二字音読み語に関しては同形

同義語が7割近くを占めるが、二字訓読み語は同形同義語が半分しかない。

(3) 品詞性から見ると、二字音読み語の場合、品詞性が対応している語が半分以上を占める。それは、日中両言語でともに名詞である語が数多くあるからである。品詞にズレがある日中同形語に関しては、日本語では名詞・動詞、中国語では動詞である語が最も多い。品詞性が完全に異なる語の中では、日本語では名詞、中国語では動詞である語が最も多い。つまり、日本語では名詞用法があり、中国語では名詞用法がないことによって品詞のズレが生じるパターンが最も多い。

二字訓読み語の場合、日中両言語でともに名詞である語が86.89%を占め、残りの語は品詞にズレがある。三字語も同じくほとんど両言語で名詞である。そして、四字熟語に対して『新明解』では一部品詞性の記述があるが、『現漢』では品詞性に関する記述がない。

(4) 二字音読み語の中で、同形同義語で品詞性が対応していない同形語は3456語もあり、意味は品詞性に影響するが、品詞性を左右する唯一の要素ではないことが明らかになった。

考察の結果から、日中同形語についてまだ研究に値する分野があることがわかる。「最近・交替」など意味に微妙な違いがある同形類義語への考察、品詞性にズレが生じる原因、三字以上の日中同形語の意味及び品詞性の対応関係の言明など、多くの課題が残っている。

参考文献

- 文化庁 (1978) 『中国語と対応する漢語』 大蔵省印刷局
 王蜀豫 (2001) 『中日語彙対比研究』 成都：四川文芸出版社
 林玉恵 (2002) 「日華・日漢辞典からみた日中同形語記述の問題点——同形類義語を中心に」 『世界の日本語教育』 12: 107-121
 徐枢・譚景春 (2006) 「關於《現代漢語詞典 (第5版)》詞類標注的說明」 『中国語文』 1: 74-86
 村木新次郎 (2012) 「四字熟語の品詞性を問う」 『日本語の品詞体系とその周辺』 ひつじ書房 111-121
 施建軍 (2013) 「中日同形語共時比較研究的現状及存在的課題」 『東北亜外語研究』 1: 4-9
 金田一京助・山田忠雄等編 (1997) 『新明解国語辞典 (第五版)』 三省堂
 中国社会科学院語言研究所詞典編輯室編 (2005) 『現代漢語詞典 (第五版)』 商務印書館

謝辞：本稿の作成にあたり、関西大学外国語教育科、馮時さんのご協力をいただきました。この場を借りて、感謝の意を申し上げます。